

22 ジャンル分けしよう

母語話者は、何か文章を読んだとき「これは小説の一部だな」とか「学校のお知らせ文だ」といった判断を無意識のうちに行った上で背景知識を利用してそのテキストに向かっている。しかし、JSL の子どもたちにとってそれはかなり困難なことである。そこで、ジャンルという切り口を紹介することによって、母語での知識を活性化し、初めての文章に向かうときの抵抗感を少しでも軽減したいと考えた。一方、母語話者である日本の生徒には、普段自分たちが無意識に活用している言語に関する知識を再認識し、日本語を客観的にとらえ直すきっかけとしてほしいと考えた。ジャンルの特徴を教師が示すのではなく在籍クラスの生徒たちと一緒に考えるという点がポイントとなるが、ここでの教師の役割はコーディネーターに徹し、適切なヒントを示しながら両者をうまくつなぎ合わせることができるとよいと考えられる。

- 1 領 域 言語事項
- 2 教 材 ジャンルの異なる文章（日本語・生徒の母語・英語の例をそれぞれ）
- 3 目 標 ・日本語で書かれた色々な文章を読んでジャンル分けすることを通して、ことば・文章への興味を持つ。
 【JSL 生徒の目標】
 ジャンルによって文章の特徴が異なることを知り、日本語の文章におけるいくつかのジャンルの文章の大まかな特徴を知る。
 【JNL 生徒の目標】
 ジャンル毎の文章の特徴を構成する要素を分析し、非母語話者に伝える方法を考える。
- 4 指導時間 2 時間
- 5 指導形態 1 は取り出しで、2 以降は在籍クラスで
- 6 指導事項 ・言語スキル

領域	指導事項	言語スキル
言語事項	【話や文章、文】 ・相手や目的に応じて話や文章の形態・展開に違いがあることを読み取る（母語でも日本語でも）。	・文章の語彙・構文・構成などの特徴に気付くことができる。

7 指導計画

	学習活動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
1 次 1 時 間	取り出しで ○ジャンルについての既有知識を出し合う。 ・「ジャンル」ということばの意味を考えて意見を出し合う。 ・レコード店・本屋・レンタルビデオ屋などの表示を思い出す。 ・「ジャンル」の辞書的意味を確認する。 ・母語で書かれた文章を数種類読み比べてジャンルを特定する。 ・ジャンルを特定した根拠について講師に説明する。 ・ジャンルの異なる日本語の文章を配布し、次回の授業の予習をするよう指示する。	・知らない単語の意味を類推することができる。 ・分からないことばを辞書で調べられる。 ・多様な文章についてそれぞれの表現の特色が分かる（母語で）。 ・自分の考えをまとめて話すことができる。	・生徒が知っている具体的な例を示す。 ・母語での先行経験と関連づけて、既有知識の活性化を図る。 ・同様の活動を在籍クラスでも別に実施し、JNLの生徒は英語等で書かれた文章のジャンル分けを経験し、その難しさを知っておく等するのもよい。
2 次 1 時 間	在籍クラスで ○ジャンルの異なる日本語の文章を読み比べてジャンルを特定する。 ・テキストだけにした文章を数種類用意してジャンルを推測する。 ・推測した根拠を自分で考える。 ・グループで話し合って意見を一つにまとめる。	・話題を的確にとらえることができる。	準備する教材例 例) ①同じ素材(歴史上の出来事)を扱った「歴史教科書の文章」「物語文」「小説」等から ②同じトピックで「辞書・百科事典の記述」「理科の教科書」「随筆」等から ③トピックに関係なく「新聞記事」「手紙文」「宣伝文」等 ・個別の対話で根拠を考えさせる。 ★JNL生徒たちの説明を工夫させる（JSL生徒

